講 師 派 遣 申 請 書

期　　日	２０２２年６月 23 日　木曜日
講　師　名	大倉　一真　さん（おおすみアウトリーチセンター「ふらっと」所長）
行　事　名 会　場　名 講 演 時 間	肝属地区人権・同和教育研究協議会　第 50 回肝属地区進路保障研究会 鹿屋市西原地区学習センター 14：30　～　15：50　（講師紹介を含む） ※ 開会　14 時 00 分（受付：13：30～）
講師への要望	講演の内容について ①　施設の概要，子どもたちの様子（個人が特定されない程度に） ②　不登校の子どもたちから見た学校の課題 ～なぜ，子どもたちは学校の学びを避けるのか？～ ③　引きこもりや不登校からの進学・就業 ④　学校と施設とのつながりかた ⑤　学校現場への提言 ～フリースクール代表として考えること～ よろしくお願いいたします。
会場への経路	会　場　：　鹿屋市西原地区学習センター 住　所　：　鹿屋市西原２丁目２番３号
旅費負担区分	肝属地区人権・同和教育研究協議会負担（講師謝金含む） **※　当日は，印鑑をご持参ください。**

上記のとおり申請します。
２０２２年５月 25 日
肝属地区人権・同和教育研究協議会　会長　　濵田　洋一朗

おおすみアウトリーチセンター「ふらっと」所長　　大倉　一真　殿

※　講演時に必要な物や不明な点等ありましたら，
肝属地区人権・同和教育研究協議会事務局：若林までお知らせください。
肝付町立国見小学校（℡0994－65－2049　Fax0994－65－2051）

本校にも不登校生徒がいますので,今後の対応につなげていきたいと思います。不登校生徒の対応がマンネリ(1年以上状況が変わらない)してきて何をすれば良いのかわからなくなっていましたがまだまだ出来ることはある，と思うことができました。民間の方など，外部の方と協力しながら対応していきたいです。

大倉さんの活動はとても素晴らしいと思った。一人一人その人間に寄り添い，支援することはなかなかできないことだ。私たち教員ができないところをしている。連携をして，一人でも多くの人が救えるような環境を作っていく必要があると思う。

子どもが不登校になり，保護者も苦しんでいるのを見たことがあります。学校と保護者の2つの視点だけではなく，民間の方々にも入ってもらって，別の視点からみてもらう，という形，とっても素敵だと思った。不登校・苦登校の児童に対して，いろいろな関わり方があることが分かって，少し安心した。もっといろいろな人に知ってもらうべきだと思う。子どものSOSにできるだけ早く気づきたい。

スマートフォンで「鹿屋　フリースクール」と検索した際にPS支援機構パーソナルサービスのブログ⁉ホームページを見たことを思い出しました。今回，大倉さんの話を聞いていて，「10代のうちに」に大きくうなづけます。と同時に関係機関へのつなぎ方を知らない自分を変えようと思っていなかったな…と反省。大倉さんの話を聞いて，卒業したあの生徒に紹介したいなとも思うことでした。

「どうにかしたい。」と思っていても「家庭のことは学校では・・・」と職員間ではなってしまう。大蔵さん達のような人がもっと学校現場・地域に入ってほしいと思った。救いたい生徒のことが頭に浮かんだ。

フリースクールがあるらしい・・・ということは聞いたことがあったが，「ふらっと」さんの存在を初めて知ることができた。不登校児童などの対応に市の方から支援してくれる方が来て，ケース会議を開いてくれているが，なかなか先が見えていない現状。それよりも見えない部分で悩んでいる子どもがいるかもしれないということを考えると怖いなと思った。

子どもに寄り添うこと，子どもの思いを感じとることの大切さを改めて学べた。また「不登校・苦登校児童・生徒」への多様なアプローチの大切さを知ることができた。

私たちの住む大隅でも様々な事情で苦しんでいる子がいる現状に驚いた。学校だけでの対応はもはや難しいことがわかった。悩む子どもを中心に他職種とチームで支援させていくことの必要性を感じた。

今の不登校生に対する早い段階でのアプローチがいかに大事かを痛感しました。学校だけでなく地域・民間等の積極的な連携・チームが作れるといいなと思いました。子ども・家庭に対して,様々な機関が関われると「鹿屋に住みたい」と思える場所になるのではと思いました。人との出会いはとても大事だと痛感しました。

不登校・中退に対応するためには，民間の団体との連携が必要である。我々教員と違う視点から，つまり福祉の視点からなされている面もあるからだ。こうした情報を共有することにより，様々なヒントが得られるだろう。また大隅地区に不登校等に対応するためのセンターを作る話が出てきたが良いことだと思う。

ケース会議に民間の方が入って断られたという話があったが，今まで民間の方が入るとかいう考えがなかった。幅広い方々に意見をいただくためにいろんな方面から入ってもらうのはいい事と感じた。

「ふらっと」のような場が鹿屋市内にもっとあればよいのにと思う。本校にも気になる子どもがたくさんいる。校内で情報交換の場はあるが対応の担任が一人で抱えているケースが多い。

「こころ」さんの具体的な活動を知ったのは正直初めてでした。直接だけではなく，ラインや電話など24時間対応という点もたいへんありがたいと思うことでした。身近にこのような取組をしているところがあるということを広めていく必要があると思います。

民間ならではのフットワークの軽さや柔軟に寄り添いながら支援されてることを知るいい機会になりました。

不登校、ひきこもり児童生徒には関係機関とチームとして連携して対応するのが大切だということがわかった。いろいろな体験ができる場を作ることも必要だと思った。

不登校の児童が悩みを打ち明けられるSNSのサービスがありがたかったです。

鹿屋市にこのような施設があるとは知らなかった。話には聞いたことがあったので，その所長さんのお話が聞けて，身近に感じ，利用しやすいと思った。学校に帰ったらこの施設について，職員室に還元したいと思った。

大隅にもこのような支援機構ができて本当に良かったと思う。パーソナルサービス(PS支援機構)について広く紹介していってほしい。

すごく興味深い話でした。不登校3日で，対応すべきだという言葉に我学校でっも考えないとなと思った。すごく素敵な活動をされていて日本もすてたもんじゃないなと思ったし，見学に行きたいと思った。何か私もできないかなと思える機会になったことがありがたかった。

講話の中で，学校内に子どもの居場所(さぼれる場)があればという事でしたが，正にその通りであると感じた。なんとか設置ができないか，検討していけたらと思う。

一人の子どものために，このように活動をしていることを聞くことができて大変勉強になった。一人の子どもも見逃さない。そのためにはどのようなこともするという姿勢に感銘を受けた。
私も大倉さんのような一人一人の人間を大切にする人間でありたいと感じた。

不登校で困っている子どもたちをほとんどボランティアの様なかたちで受け入れてくれているのでありがたい存在であると思う。

不登校児童・生徒に対応するのにもやはり早めのアプローチが大切なのだとわかりました。受け入れて下さる施設やそこにつとめる方々との取り組みや心配りに感心しました。

不登校になった際，教員としてなんとか学校に目を向けさせることを意識させたが，生徒自身のことを考えると，民間をうまく活用していくことも大事だと感じた。一方で，学校とのつながりを失わせないためには，どうすべきなのかという課題も感じた。